



社会福祉法人鳥取こども学園

児童家庭支援センター 子ども家庭支援センター「希望館」

所長 遠藤 信彦

歩みを止めない運動体 鳥取こども学園

私がつとめる社会福祉法人鳥取こども学園は、前身の施設を含めて119年間、一日も休むことなく続いています。119年前といえば明治の39年、日本が大きな国ロシアに対し、中国の奉天で激闘し、日本海でバルチック艦隊を撃破し、203高地を越え旅順要塞を攻め、戦争に勝った年です。鳥取市民は大通りに万国旗を吊るし、天皇陛下万歳！乃木大将万歳！とパレードを行っていたそうです。しかし多くの鳥取のお父さんが国府町の歩兵第40連隊基地から出兵して亡くなり、立ち行かなくなった家の子ども達がパレードの傍らで途方に暮れていたそうです。これをどうにかしないといけないと発起した、現在も鳥取県庁前、敬愛高校の横にある小さなキリスト教会に集う信者達がお金を出し合って建てた孤児院がスタートです。

はるかに時は移って令和の現在、当法人は、長期間子どもをあずかり育てる児童養護施設や乳児院のみならず、地域の子ども家庭を支える多くの取り組みを行っています。例えば、豊かな自然に囲まれた広い芝生グラウンドと、キリスト教保育・教育が持ち味の認定こども園『みどり園』や、親子が気軽に立ち寄り交流や相談ができる地域子育て支援センター『わくわく』、鳥取県の里親家庭をサポートする『いろは』、親御さんの病気や冠婚葬祭、お仕事など、子育てがいつとき難しいとき、子どもを預けることができる一時養育ホーム『はちみつ』などなど。そして、子育てに関するさまざまな相談に応じる、私達『子ども家庭支援センター「希望館」』があります。

これらの事業は、時代の要請と地域のニーズに応じて始めてきました。時には制度が無いところから実践を重ね、制度を作ってきました。社会福祉法人鳥取こども学園は、鳥取県の子ども家庭のより良い福祉を追求するため、国や県に働きかけ、形を変えていく運動体です。この歩みと進化は119年間止まることなく、そして、これからも展開していきます。